

報道機関各位

(報道発表資料)
令和8年5月15日
北九州市保健所保健企画課
(担当:吉野、河崎)
電話:093-522-5721

麻しん患者の利用施設について

令和8年5月14日に報道発表した「麻しんの発生について」の続報となります。北九州市が調査を行ったところ、他の人に麻しんを感染させる可能性がある期間(感染可能期間※)に、以下の不特定多数の方が利用する施設を利用していたことが判明しましたのでお知らせします。

※発症日の1日前から、解熱後3日間を経過するまでの期間

1 感染可能期間に患者が利用し不特定多数の方と接触した可能性のある施設等

利用日	感染の可能性のある時間帯	利用した施設
5月7日(木)	9時30分頃～12時30分頃	若松区役所(西棟1階)
	10時30分頃～13時頃	福岡銀行若松支店
	11時頃～13時30分頃	サンリブ若松
	14時頃～16時30分頃	福岡銀行若松支店
5月9日(土)	11時頃～13時30分頃	アルゾひびきの店
		セリアフォレオひびきの店
5月10日(日)	10時頃～13時頃	ラ・ムー若松店
	11時頃～14時頃	ドラッグストアコスモス北湊店
5月13日(水)	9時50分頃～11時55分頃	産業医科大学若松病院 (1階待合室)

※ 現時点において当該患者が利用した施設等を後から利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルスに感染することはありません。

※ 施設へのお問い合わせは御遠慮ください。

【上記日時に当該施設を利用された皆さまへ】

- 施設を利用した日から21日間は、麻しんを発症する可能性を考慮し、健康状態に注意してください。
- 37.5度以上の発熱・かぜ症状・発疹のあった場合は外出を控えていただき、医療機関を受診される前に、必ず保健所に連絡し、指示に従ってください。
(北九州市保健所保健予防課 TEL:093-522-8764)
- 医療機関を受診される際には、「麻しん患者と接触がある」旨をお伝えいただき、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けてください。

2 患者情報(5月14日公表分)

若松区在住、30代、女性、予防接種歴不明、海外渡航歴なし

《麻しん(はしか)について》

➤ 麻しんとは

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスによる感染症です。感染力がきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～18人の人が感染すると言われております(インフルエンザでは1～2人)。ほぼ100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われております。

➤ 症状

麻しんウイルスに感染して10～12日後に、発熱や咳などの症状が現れます。38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状(咳、鼻水、くしゃみなど)、結膜炎症状(結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど)が現れて次第に強くなります。

発疹が現れる1～2日前ごろに口の中の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点(コプリック斑)が出現します。コプリック斑は麻しんに特徴的な症状ですが、発疹出現後2日目過ぎるころまでに消えてしまいます。

コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに1か月くらいかかることも珍しくありません。

麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い(1000人に1人)ものの死亡することがあり、注意が必要です。

※修飾麻しんについて

麻しん含有ワクチンを1回接種している場合など、麻しんに対する免疫が不十分である人が麻しんに感染し、軽症・非典型的な症状が出た場合を「修飾麻しん」と言います。発熱期間が短い、微熱、咳、鼻水、結膜炎などが無いなど症状は通常麻しんより軽症で、感染力も典型的な麻しんと比較すると低いとされていますが、感染を広げる可能性はあります。

➤ 感染防止のポイント

麻しんは、空気感染を起こし感染力がきわめて強いことから、手洗いや一般的な(布・不織布などの)マスクのみでの予防は十分ではありませんが、予防接種(ワクチン接種)を2回行うことによって、95%以上の方が免疫を獲得し、予防することができます。

予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。

医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。

麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等 麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。

その際、症状出現日の10～12日前(感染したと推定される日)の行動(海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等)について、医療機関にお伝えください。

注意!

感染力が極めて高い

麻疹(はしか)

感染拡大しています



症状

感染約10日後に発熱や咳などの風邪症状が現れ、2~3日熱が続いた後、**39度以上の高熱と発しん**が出現します。

感染経路

空気感染等によりヒトからヒトへの**感染力は非常に強い**です。発症日の1日前から解熱後3日間まで感染力がああります。



皆様へのお願い

- ・麻疹を疑う**症状がある場合**、**外出を控え**、受診する際には**事前に医療機関に電話**し、なるべく**公共交通機関の利用を避けて**ください。
- ・麻疹の感染拡大防止のため、接触者等への**行政による調査にご協力**ください。
- ・お子様が**1歳または就学前1年間**にある場合、積極的に**早期の接種**をご検討ください。
- ・定期接種の**接種歴を確認**いただき、**2回のワクチン接種の検討***をお願いします。
※今回の流行の中心である10~40代の方は特にご検討ください。
- ・妊娠中に感染すると早産や流産のリスクがあるため、**妊娠前の接種を検討**ください。
- ・**免疫不全のある方**は、主治医の方と相談の上、**接種を検討**ください。
- ・**乳幼児**は、肺炎や脳炎を起こすリスクがあるため、**家族の接種歴を確認**ください。

詳しくは、厚生労働省WEBページをご覧ください

 **厚生労働省**

感染症対策課 2026年4月 作成

